01 地域から世界へ

グリーンモビリティの研究

環境への負荷が少なく、安全かつ安心な交通手段やシステムを研究する、
「名古屋大学グリーンモビリティ連携研究センター」。
2011年7月、専任教員が配置され、本格的な研究活動が始まりました。
持続可能な社会の実現を目指すセンターの取り組みや役割についてご紹介します。

産学官で未来の移動体を研究

環境に優しい移動体や交通システムを備えたグリーンモビリティ社会の実現は、全世界共通の重要な課題です。2011年、名古屋大学では、産学官が連携する国内最大級の研究拠点、グリーンモビリティ連携研究センターを設立し、課題解決に結びつく革新的な技術の創出を目指しています。7月の本センターの設立記念式典には、他大学や企業、自治体などから約500人が参加し、社会の期待の高さがうかがえるものとなりました。

分野や立場を越えた融合研究を展開

未来の移動体を開発するためには、現状の改善ではなく、新たなブレークスルーが必要です。そこで本センターでは、グリーンビークル材料、高度道路交通システム（ITS）・社会システム、バイオメカトロニクス、パワートレインという4つの研究開発拠点を設置。各拠点が有機的に融合しながら、国内外の研究機関や企業と連携してプロジェクトに取り組んでいます。
中核となるグリーンビークル材料研究開発拠点が目標とするのは、創エネ、省エネ、軽量化、資源循環、安全技術を搭載した未来の自動車「グリーンビークル」の開発です。その特色は、専門分野の枠組みを越え、地域の産業界とも協力して、基礎から実用化までを見据えた融合研究を展開する点にあり、世界をリードする技術と人材育成を推進しています。また、各分野の研究者が研究内容を擦り合わせやすいよう、グリーンビークル材料研究施設内に研究室や装置などを集約。最新鋭の解析・計測機器を、学外の研究者にも開放しています。

地域に世界No.1拠点を形成

2012年1月からは、次世代自動車公開シンポジウムを連続して開催するなど、本センターの活動はさらに活発化しています。その先には、グリーンモビリティ分野における世界No.1の拠点形成、2025年の新規産業創出といった目標があり、世界有数の輸送機産業集積地にある基幹的総合大学として、名古屋大学は目標達成を先導する役割を果たしていきます。